

地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会（第26期・第3回）

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会（第26期・第3回）

地球惑星科学委員会地球惑星科学社会貢献分科会（第26期・第4回）

地球惑星科学委員会地球惑星科学次世代育成分科会（第26期・第5回）

合同会議 議事要旨

日 時 令和6年12月27日(金) 13:00～15:00

会 場 オンライン会議 (ZOOM)

出席者

（会員）佐竹 健治、沖 大幹、小口 高、倉本 圭、中村 卓司、西 弘嗣、堀 利栄、
藪田 ひかる、森口 祐一、矢野桂司

（連携会員）浅井 歩、阿部 彩子、飯島 慈裕、石川 徹、石渡 明、井田 仁康、
伊藤 香織、植松 光夫、白田 裕一郎、江守 正多、大朝 由美子、大久保 泰邦、
大谷 栄治、大路 樹生、奥村 晃史、小野 裕一、掛川 武、片岡 香子、金谷 有剛、
川口 慎介、川幡 穂高、川東 正幸、木村 学、久家 慶子、黒柳 あずみ、
癸生川 陽子、齊藤 宏明、齋藤 文紀、佐々木 昌、佐藤 薫、新永 浩子、杉田 文、
鈴木 康弘、関 華奈子、関谷 直也、関村 直人、高橋 桂子、高藪 縁、田近 栄一、
津田 敏隆、中島 映至、中村 尚、中村 正人、新野 宏、西山 忠男、長谷部 徳子、
花輪 公雄、日比谷 紀之、平田 直、藤井 良一、古屋 正人、益田 晴恵、
升本 順夫、村山 泰啓、谷田貝 亜紀代、山岡 耕春、山形 俊男、山岸 明彦、
山田 育穂、由井 義通、横山 広美、吉田 丈人、渡邊 誠一郎

（オブザーバー）

三枝 信子、土屋 旬、榎本 浩之（以上、国際連携分科会）沖野 郷子（SCOR 分科会）

欠席者

（連携会員） 稲葉 俊哉、唐沢 かおり、木村 園子ドロテア、久保 純子、標葉 隆馬、
谷口 真人、谷本 浩志、張 勁、橋本 禅、原田 尚美、見延 庄士郎、山口 紀子、
山野 博哉、山本 佳代子、若林 芳樹

議題

- （1）日本学術会議・第三部・地球惑星科学委員会の活動報告
- （2）地球惑星科学委員会各分科会の活動報告
- （3）未来の学術振興構想と地球惑星科学分野の将来構想（夢ロードマップ）について
- （4）その他

資料

資料 1：日本学術会議総会報告

資料 2：第三部会報告・意思の表出

資料 3：地球惑星科学委員会及び各分科会の活動報告

資料 4：地球惑星科学将来構想改訂に向けて

参考資料

日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会

有識者懇談会最終報告書（12/20）

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai.html>

組織・制度ワーキング・グループ

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/soshikiwg.html>

会員選考等ワーキング・グループ

<https://www.cao.go.jp/scjarikata/kondankai/kaiinwg.html>

日本学術会議会長談話（12/22）

<https://www.scj.go.jp/ja/head/pdf/20241222.pdf>

議事に先立ち、佐竹委員長から開会挨拶がなされ、今回の議事内容の確認をおこなった。

（1）日本学術会議・第三部・地球惑星科学委員会の活動報告

・総会（10月21－22日、12月22日）の報告（資料1）

日本学術会議の在り方に関する有識者懇談会の最終報告書と日本学術会議の対応について、佐竹委員長から説明があった。

質疑応答において、大谷委員から、会員候補者は日本国籍を有すること等の制限条件があるが条件は今後見直されるかとの質問があった。これに対して、佐竹委員長と三枝副会長より、最終報告書中の記述「外国人会員実現のための制度的な障害をクリアするなど、学術会議が求められる機能を十分に発揮するための環境を整えるという観点からも、国とは別の法人格を有する組織になることが望ましい」の紹介があった。

渡邊委員から、会員・連携会員選考の制度化について今後どのように具体的内容が決まっていくのか、法律に縛られずに自由度を確保した上で制度設計していくことが望ましい、との質問・意見があった。これに対し、佐竹委員長より、最終報告書では、選考助言委員会などの枠組みは法律で決まり、連携会員などの内部性は内規により運用されると書かれているとの回答があった。

・第三部夏季部会（8月1－2日）の報告（資料2）

第三部夏季部会について佐竹委員長から報告があった。また、佐竹委員長と三枝副会長から意思の表出（種別・査読・スケジュール）について説明があった。第26期におい

ては、各関係機関等への周知、シンポジウム、フォローアップ等に充てる時間を確保するため、原則として令和7年9月末まで、遅くとも8年3月末までに意思の表出を発生して頂きたい。そのためには、令和7年1月末までに検討課題等を記した意思の表出の申出書を提出することを目指して頂きたい、とのことであった。

(2) 地球惑星科学委員会各分科会の活動報告(資料3)

佐竹委員長から地球惑星科学委員会(第26期第5回(JpGU2024 ユニオンセッション)及び第6回)について報告があった。また、地球・惑星圏分科会(第2回)、地球・人間圏分科会(第2回)、国際連携分科会(第4回)、次世代育成分科会(第4回)、社会貢献分科会)について、各分科会委員長から報告があった。

(3) 未来の学術振興構想と地球惑星科学分野の将来構想(夢ロードマップ)について

地球惑星科学将来構想改訂に向けて(資料4)

倉本委員から、地球惑星科学将来構想にかかるこれまでの経緯と今後の予定、およびJpGU2025 ユニオンセッションについて説明があった。

質疑応答において、中島委員から、文科省側が別に作っているロードマップにおける学術会議との連携はあるのかとの質問、および「未来の学術振興構想」において学術の高い視点から将来構想をまとめなおしたことは文科省による大型研究策定の良い基盤資料になるとの意見があった。これに対して、田近委員から、マスタープランで掲載された200件近い計画が「未来の学術振興構想」でも掲載された点では同じだが「未来の学術振興構想」では重点大型計画を選ばなかったところが異なる点である、学術振興構想グランドビジョンの括りで学術として方向性を示した中でトッププライオリティは何かについて追加議論を要するというのが今の話であるとの説明があった。また、西委員から、沖縄自然史博物館を例として、学術会議の作るロードマップは間接的に文科省が提案するロードマップの予算化の手がかりとして有用であり、これをしっかりとやっていくことは重要であるとの説明があった。田近委員からも、夢ロードマップと大型学術振興構想は繋がっているが分けて考える必要がある、分野としての将来構想と大型研究の位置付けをコミュニティで合意して発表しており、文科省等の判断根拠の一つになるという意味で夢ロードマップの改訂は重要でその作業を重ねているのは地球惑星科学分野だけである、との説明があった。

佐竹委員長から、今期リストされている計画に加えて令和7年春に「未来の学術振興構想」追加公募が行われること(小改訂)、その次の「未来の学術振興構想」では夢ロードマップに計画が掲載されていることが重要なので次期の夢ロードマップを令和8年12月末に改訂する予定であることについて説明があった。中村(卓)委員から、令和7年の小改訂に向けた公募では、新規・改訂・追加の3つカテゴリがあるであろうとの説明があった。また田近委員から、小改訂とJpGU2025年大会との時期がずれていても、両

時期に計画が掲載されボトムアップ的に合意形成されることが大事であるため、JpGU セクションサイエンスの会合を開くことも良いとの提案があった。

横山委員から、物理学分野の文科省審査委員を過去に務めた立場から、本来並ぶべき計画件数は（200 件もの大量ではなく）10 件程度であるべきであることを再認識した事例および、本来入るべきプロジェクトが遠慮する状況が生じたために文科省が当時のマスタープランに掲載されていない計画も考えて審査する必要が出てきた事例等を踏まえ、ボトムアップで総意を得た計画が残るのが正しい姿であるので今後の進展に期待をしたとの意見があった。

渡邊委員から、追加公募で応募する場合の情報について質問があった。これに対して、倉本委員、佐竹委員長より、JpGU は夢ロードマップ改訂に集中し、追加公募は情報があれば対応するとの回答があった。

（４）その他

以上